

8月01日(日) 09:00~11:00 2チャンネル

## POCWS-02(要旨) 外国人診療に役立つ「やさしい日本語」でコミュニケーション教育

司会：武田 裕子（順天堂大学）

今や外国人住民の数は約287万人(令和2年1月)と、日本に住む40~50人に一人が在住外国人です。「外国人診療は何語で行いますか?」と医療者・医療系学生に尋ねると、「英語」という回答が返ってくるのがほとんどです。しかし、在留外国人の約7割は日本語である程度以上の会話が可能であり、英語の4割を大きく上回ります。「やさしい日本語」とは、相手に合わせて分かりやすく伝える日本語を指します。日本語を母語としない方、高齢者、障害のある方など、聴こえや理解に困難のある方に用いられます。外国人対応を求められる行政窓口など、さまざまな分野で活用され始めていますが、医療者にはあまり知られていません。本企画では、この「やさしい日本語」を用いたロールプレイを参加者に体験していただきます。伝わりやすい言葉を探すには、相手の背景を理解し、表情や姿勢を注意深く観察する必要があり、相手の発する言葉をもとに判断しなくてはなりません。医学・医療系学生にとっては、コミュニケーションの基本を学ぶこととなります。「やさしい日本語」のスキルを学んだ医療者は、高齢者との会話など日常業務でも役立っていると言います。このワークショップではそれを実感していただけるよう企画しました。参加者ご自身の医学・医療機関で広めていただく際に利用可能な教材の紹介など、ファカルティ・ディベロップメントとしての側面もあるワークショップとなっています。ワークショップ概要: (1)「やさしい日本語」の生まれた背景, (2)動画教材の紹介と質疑応答, (3)練習問題-単語と文章の変換, (4)ロールプレイ, (5)グループ・ディスカッション(「やさしい日本語」の医学教育への導入について), (6)グループ別発表・全体討議, (7)参加者感想・ファシリテーターからのコメント。(参考) 1. 医療×「やさしい日本語」研究会HP: 「やさしい日本語」の基礎とコツ・医療で用いる「やさしい日本語」実践例・外国人が考える「やさしい医療」(動画教材) <https://easy-japanese.info/archives/391> 2. 武田裕子, 岩田一成, 新居みどり. 『医療現場の外国人対応: 英語だけじゃない「やさしい日本語」』. 南山堂, 東京. 2021年5月

ファシリテーター：石川 ひろの（帝京大学）  
Hirono Ishikawa (Teikyo University)

岩田 一成（聖心女子大学）  
Kazunari Iwata (University of the Sacred Heart, Tokyo)

新居 みどり（NPO法人国際活動市民中心）  
Midori Nii (Citizen's Network for Global Activities)